

I 目指す学校

本校は、次代の日本を支えるリーダーを育成する学校として、その使命を果たしていく。学校生活を通して生徒一人一人の自己理解を深めさせ、個性と能力を引き出し伸ばすとともに、人間性を磨き他に対する思いやりの心、自他の生命を尊重する心、社会貢献の精神を育成する。特に生きる力を支える「確かな学力」を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図ることを目指す。

そのために、次の目標を達成する学校づくりを推進する。

- ① 国公立大学や難関私立大学等、生徒の高い進路希望を実現する学校
- ② 豊かな人間性・社会性、自らを律する心、強健な心身を育成する学校
- ③ 多様性を認め、自他の文化を尊重するグローバル人材を育成する学校

《スクール・ミッション》

英語4技能をバランスよく育成する英語教育の推進、海外の学校との相互交流による国際理解教育の推進、理数系の素養を持つ生徒の裾野を拡大する教育活動や将来の東京の教育を担う人材の育成に向けた高大連携による教育活動等を通して、次代の日本を支えるリーダーを育成します。

《アドミッション・ポリシー〔入学者の受入に関する方針〕》

- 1 本校の教育方針をよく理解し、志望の動機と将来への目的意識がはっきりしている生徒
- 2 高い目的意識をもって主体的に粘り強く学習に取り組む意欲をもつ生徒
- 3 学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮することのできる生徒
- 4 基本的な生活習慣を身に付けており、自己を厳しく律してけじめのある生活を送ることのできる生徒

《カリキュラム・ポリシー〔教育課程の編成及び実施に関する方針〕》

- 1 生徒の高い進路希望を実現することのできる学習指導と進路指導を実践する。
- 2 文系・理系に関係なく、生涯にわたって学び続けることのできる基礎・基本を習得させる。
- 3 各教科等で育む資質・能力を明らかにし、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点から教育活動の改善を行う。
- 4 学習活動と特別活動のバランスをとり、すべての教育活動を通じて、豊かな人間性・社会性を育む。
- 5 学校評価を生かした教育課程の編成・実施・改善に取り組む開かれた学校にする。
- 6 特色ある教育活動を通じて、国際的な視野、探究的な態度、社会貢献の精神等を醸成する。
- 7 土曜授業等を活用し、生徒の学力向上の促進を図る。

《グラデュエーション・ポリシー〔育成を目指す資質・能力に関する方針〕》

基本的な知識・技能の習得	知識・技能	基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる
	読解力	通常の文章の他、図やグラフ、表等テキストから、情報を取り出し、理解・解釈する力を身に付ける
思考力・判断力・表現力の育成	情報活用力	課題や目的に応じ、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造する能力を身に付ける
	論理的思考力	演繹的思考・帰納的思考・類推等の方法を使い、筋道立てて考える力を身に付ける
	課題解決力	自ら課題を発見し、情報をもとに判断し、解決する能力を身に付ける
	発信力	自分の考えを記述・論述するとともに、分かりやすく他者に伝える方法を身に付ける
学びに向かう力、人間性等の育成	自己調整力	自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善する
	主体性・協働性	主体性をもって、多様な人々と協働して学ぶ
	粘り強さ	問題解決に当たって、粘り強く考え、よりよい解決策を導く

II 中期的目標と方策

1 学習指導

(1) 進学指導推進校としての授業改善・指導力向上の推進

- ① スクール・ポリシーを指導の基軸に据えて、学習指導要領に基づいた指導計画を作成し、三観点を踏まえた学力向上に向けた組織的な取組を推進する。
- ② 教員相互の授業参観の実施、指導教諭の模範授業及び進学指導研究協議会の指名制授業研究による授業研究の推進、学校評価や生徒による授業評価を活用した授業に関する自己研鑽の実施により、生徒が求める知識・技能を身に付けさせられる授業実践力の向上を図る。
- ③ 探究活動の充実、読書活動の推進、ビブリオバトル、Tokyo GE-NET EE事業への参加等により言語活動を充実させ、読解力及び思考力・判断力・表現力を育成するとともに、大学入試における記述問題や小論文問題等を解く力を身に付けさせる。
- ④ Tokyo GE-NET EE事業により、英語外部検定試験を用いた効果測定やオンライン英会話を活用し、英語4技能5領域をバランスよく育成する。また、JETによるティームティーチングの授業や英作文の添削指導を行うことで、思考力・判断力・表現力を育成し、国際社会で活躍する人材を育成する。
- ⑤ ICT機器や一人1台端末を有効に授業で活用し、授業や教育活動の内容、情報等のデジタルによる双方向の通信を推進し、主体的に学習に向かう態度を育成する。

(2) 「総合的な探究の時間」の活用

- ① 1学年（「人間と社会」の代替）では、「学びの芽吹き」をテーマに学習する。自ら課題を発見し、主体的に解決を図るための探究活動に必要な「知識」と「技能」の習得、応急給水訓練、地域社会で活躍する社会人による講演会の受講、外国人留学生との交流活動等の体験的学習を通じて「人間としての在り方、生き方」を考察させるとともに、道徳の実践力も身に付けさせる。
- ② 2学年では、「学びの飛躍」をテーマに学習する。自己の興味や関心に基づき、各自でテーマを設定し、個人研究を行う。年間を通じて、テーマ選びから仮設の設定、実証・論証の取組や実験の実施等の活動を踏まえて、論文の作成を行う。論文作成では、探究活動の途中段階から、クラスやグループ等での発表活動を行ったり、論文の構成を可視化したりすることで、論理的な「思考力」や的確な「判断力」、豊かな「表現力」を身に付けさせる。また、進路講演会や卒業後の進路を見据えた体験的な学習、修学旅行で訪問する地域の歴史・文化・自然に関する調査・研究等にも取り組み、自己の在り方、生き方に関する視野を広げさせる。
- ③ 3学年では、「学びの輝き」をテーマに学習する。体験学習や、小論文指導等を通して、これまでの探究活動で学んだ内容について、将来の研究活動や卒業後の自らの活動に生かせるように深化させる。また、多様化する入試制度や上級学校について理解を深めながら個々の興味・関心を掘り下げ、卒業後の進路や夢の実現について考え、調べ、まとめることにより「主体的に学びに向かう態度」を向上させる。

(3) 「カリキュラム・マネジメント」の促進

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点から教育活動の改善を行う。
- ② 生徒の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成・実施・評価して改善を図るPDCAサイクルを確立する。
- ③ 各教科等で育む資質・能力を明らかにし、教育課程編成上の課題の確認、再編に向けて取り組む。

2 進路指導

- ① 「進学指導推進校」として、生徒一人一人の進路希望を実現するため、教科内と教科横断的な立場の両方を見据えた指導計画を作成し、組織的に授業改善に取り組み、3年間を見据えた指導を実践することで、次代を担う人材に求められる学力を身に付けさせる。
- ② 「進学指導推進校」としての立ち位置を見据えながら、実力テストや学力検査等の組織的な分析を通して、生徒の実態の把握に努め、情報を共有することで、生徒個々の実態に応じた進路指導を行う。
- ③ 3年間を見通した進路指導計画を構築し、各学年が年間計画に基づいて実施する校内模試の結果やその推移を基に、生徒一人一人に適切で充実した進路指導を全教職員が協働して行う。
- ④ ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」を活用し、地域で活躍する人々の講演を聴かせたり、その活動に触れさせたりすることで職業に対する理解を深め、キャリア教育の充実を図る。
- ⑤ 国公立大学や難関私立大学への進学希望に応えるために、長期休業日中の講習の更なる充実を図り、大学入学共通テストの高得点者割合の増加と個別学力検査等における記述論述力の向上を目指す。

3 生活指導

- ① 生活指導指針・「身に付けさせる規律・規範」に関する全体計画を作成し、基本的な生活習慣や規範意識を生徒一人一人に身に付けさせる。特に、授業規律、時間遵守、挨拶の励行、校内美化を全教職員が協働して指導する。
- ② 「安全教育プログラム」の活用やセーフティ教室等を通じて、情報リテラシーや薬物乱用防止等の安全に配慮する心を育てる。また、自殺防止対策に資する教育の推進に学校全体で取り組む。
- ③ 「学校いじめ対策委員会」の役割と具体的な取組を明確にするとともに、全ての教職員により、いじめの総合対策・学校いじめ防止基本方針に基づき、学校全体で組織的にいじめ防止（いじめの未然防止、早期発見・早期対応）に取り組む。

4 特別活動・部活動

- ① 学習指導要領の趣旨と前年度学校評価アンケートの結果を踏まえ、学校行事や生徒会・部活動への主体的な取組を促し、生徒の自主性・自律性を育む。
- ② ホームルーム活動の活性化を図り、集団の一員としての望ましい資質や態度を身に付けさせるとともに、いじめ防止の取組等を通して道徳教育の充実を図る。
- ③ 年4回の避難訓練、防災訓練を通して、自治体や外部機関、近隣自治会と連携した防災教育・減災教育に取り組み、生徒の自助・共助の高い意識を育む。
- ④ 国や都のガイドライン等を踏まえ、部活動の指導を通して、思いやりの心や自主性・社会性の育成、豊かな人間関係の構築や生涯学習の基礎づくり、生徒の個性・能力の伸長、そして、体力向上や健康増進等を図る。また、週休日の部活動時間の改善を進めることで、生徒の自主学習時間の確保と適切な休養の取得を図る。
- ⑤ 「理数研究校」として、フィールドワークや巡検の実施、大学主催のフォーラム等への参加、課題発見・課題解決型の探究活動への取組を通して、理数に関する興味・関心を高める。また、「科学の祭典」のポスター発表を通じて、プレゼンテーション能力を伸長させる。
- ⑥ 「海外学校間交流推進校」として、提携校との相互交流を行いながら、世界で通用する実践的な英語力を育成するとともに、日本人としての自覚と誇りを涵養する等、国際理解教育を推進する。

5 健康づくり等

- ① 生徒の心のケア等教育相談機能の充実を図る。また、共生社会の中で、多様性を尊重した教育を推進し、特別な支援を必要とする生徒に対して、その特性に応じた学習への支援に努める等、適切かつ合理的な配慮を行う。
- ② P T Aや関係機関と連携をして、生徒の不安や悩みを把握し、必要な対応を行うことができる支援体制を構築する等により、自殺防止の徹底を図る。また、保健体育等の時間を使い、教材を活用したS O Sの出し方に関する教育を実施する。
- ③ 体育の授業や体力テストの事前学習の充実、部活動、体育大会等の学校行事を通して生徒の体力向上と健康の保持増進を図る。
- ④ 「教育相談連絡会」を毎月1回開催し、生徒一人ひとりの発達段階に応じた教育活動を計画・運営することで特別支援教育の充実を図る。

6 募集・広報活動

- ① 「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」に即して、組織的な広報活動を推進し、本校の魅力ある教育活動を広く発信し、募集対策につなげる。
- ② 家庭や地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。

7 学校経営・組織体制

- ① 生徒・保護者の期待に十分応えられるように、校内組織体制の充実を図る。
- ② 法令を遵守し、サービス事故のない学校づくりに全教職員で取り組む。
- ③ 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、ライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ④ 意思決定の過程を明確にするとともに、経営企画室の機能を高め、学校経営の基盤を強化する。また、意図的・計画的な予算編成と効率的な予算執行を行う。

Ⅲ 今年度の目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策 [] は昨年度数値
<p>1 学習指導</p> <p>(1) 「進学指導推進校」として、質の高い授業を創造・実践する。</p> <p>① 基礎的・基本的な「知識・技能」を習得させるため、覚えるのではなく理解する学習活動に取り組む。</p> <p>② 「主体的・対話的で深い学び」を実践するために、教科指導において、生徒の「思考力・判断力・表現力」を引き出すよう、「問い」かけを意識した考えさせる指導を行う。</p> <p>③ 東京都教育ビジョン(第5次)(令和6年3月)を踏まえ、ICT機器や一人1台端末を活用した個別最適な学びを提供し、双方向による情報共有化を通じて「主体的に学習に向かう態度」を育成する。</p> <p>④ 相互授業参観や指名制による授業研究、外部の研究会への参加等によって、授業力向上に努める。また、その成果を各教科で共有する。</p> <p>⑤ Tokyo GE-NET EE 事業を通じて、CEFR 指標の向上を目指し、国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成に取り組む。</p> <p>⑥ 教科会の機能を向上させ、3年間を見通した指導計画を作成し、指導と評価の一体化を目指す。</p> <p>(2) Tokyo-IBL ハイスクールとして、「総合的な探究の時間」を中心とした探究活動を充実させ、育成すべき能力(COKITA*)を身に付けさせる。また、深い教養を身に付けた、主体的で自立的な学習者を育成し、卒業後の研究活動等にも活かせる指導を行う。</p> <p>① 探究活動に必要となる知識・技能を身に付けさせ、論理的な思考力を育成する。</p> <p>② 図書室の積極的な活用を推進し、読書活動を習慣化させ、様々な物事に興味関心をもち、リベラルアーツを幅広く身に付けた人材育成を行う。</p> <p>③ 問いを立て、仮説を踏まえた実証、実験、考察を行う活動を通じた論文作成を行う。</p> <p>④ 探究活動で身に付けたことを卒業後の進路でも活用できるようにする。</p> <p>COKITA* CO=Coaching、K=K/Critical I=Innovative、T=Teamwork、A=Autonomous の5つの能力を身に付け、未来を創造していく人材を育成すること</p>	<p>(1) 授業改善に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る。</p> <p>① 生徒へ教えるだけでなく、各科目の基本事項について、問いかける、考えさせる等の活動を授業に取り入れ、組織的に学力向上に取り組む。</p> <p>② 思考力及び記述力・論述力を測る定期考査の作成に向けて各教科が共通問題で取り組む。</p> <p>③ 端末を用いた双方向のやりとりを通じて、教室という空間を越えた情報共有、意見交換、発表活動に取り組めるようにする。</p> <p>④ 生徒による授業アンケートを活用し、年3回の校内での相互授業参観や教科会を通じて、教科全体で授業改善に取り組む。</p> <p>⑤ 授業では、英語4技能5領域を伸ばす指導方法の改善に取り組むとともに、各学年で年1回の外部検定試験による定点観測、オンライン英会話の指導によるコミュニケーション活動の充実を図り、国際社会で活躍する人材育成を行う。</p> <p>⑥ 適時適切な学習負荷を設定し、学習習慣の定着を図る。3年間の前半に国語・数学・英語等を中心とした基礎的な学習、後半に理科・社会等を中心とした専門性の高い科目の学習に注力した指導計画を立て、自習室の活用等、自学自習の取組も支援する。</p> <p>(2) 探究活動を通じて、課題解決力向上を図る。</p> <p>① 1年次に、探究活動の基礎となる思考力・判断力を身に付けさせる学習を実施し、表現力向上につながる活動や課題を課す。</p> <p>②ア 毎日の継続的な読書活動を定着させ、図書室の活用やビブリオバトルの実施に取り組む。 イ 地域や外部機関と連携し、生徒の知的好奇心を醸成する講演会や様々な活動を実施する。</p> <p>③ 2年次に、ゼミ単位での活動やチューターとの活動を通じて論文作成を行い、各自の探究活動の内容をまとめる。</p> <p>④ 3年次に、自分の探究活動を総括し、将来の進路実現に繋がるよう活動を深化させる。</p> <p>【数値目標】</p> <p>① 生徒による授業アンケートの肯定的評価 「内容のわかりやすさ、準備・工夫」85% [84.0%] 「思考・判断・表現力の伸長」85% [87.4%] 「興味・関心、意欲の喚起」85% [79.7%]</p> <p>② 学校評価アンケートの肯定的評価 「能力を伸ばす教育の実践」85% [生徒 74.7%、保護者 90.6%] 「満足できる授業が多い」85% [生徒 74.5%、保護者 75.5%]</p> <p>③ CEFR 指標 B 1 以上の数を昨年度以上にする。 [1年 84名、2年 159名]</p>

2 進路指導

(1) 「進学指導推進校」として、3年間を通して一貫した組織的な進路指導体制を構築し、すべての教育活動を通じて、生徒の進路実現を支援する。

- ① 生徒の主体的な学習を促すため、キャリア教育に基づく学習指導、進学指導を行う。
- ② 生徒に対して、意図的・計画的な進路情報の提供・ガイダンス等を行い、高みを目指す意識を持たせる。
- ③ 保護者に対して、「進路だより」や保護者会での情報提供に努め、家庭からのサポートを促す。
- ④ 3年生の3月まで、学校に軸足を置いた学習活動に取り組めるよう、学年・進路部・各教科が連携して組織的な取組を行う。

(2) 国公立・難関私立大学受験の取組を強化する。

- ① 生徒面談や三者面談等を通じて、一人一人の適性・能力に応じた指導を行う。
- ② 都の「志」育成事業である都立大学や京都大学等のフォーラム等に積極的に参加させ、それを機会に高等教育に対する興味・関心を高める。

(3) 「高大連携による教員養成プログラム」を東京学芸大学との連携により推進する。

- ① 1・2年生向けの講演や希望者対象のワークショップ、キャンパス訪問等を計画・実施する。
- ② チーム・エデュケーションを推進する。

(1) 生徒の自主学習時間を確保するとともに、第一志望実現を支援する。

- ①ア 1年間をとおして、学習活動と特別活動の両立を意識した指導を徹底し、自立した学習者となるよう自習室の活用を促進する。
イ 「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育を組織的に取り組み、育成すべき能力(COCKITA)を身に付けさせる。
- ② 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」に向かう意識づくりを進めるガイダンスや講習を実施するとともに、外部業者が参入するサテライト授業、校内予備校の運営体制の改善を図る。
- ③ 学校の指導方針に則って、保護者からも家庭から生徒の進路実現を支援してもらえよう、適時適切な情報発信と、保護者との協働に組織的に取り組む。
- ④ア 自習室の利用促進、生徒への個別指導、個人添削指導の充実、長期休業や始業前後の補習、講習の充実を図る。
イ 志望を下げさせない継続的な指導を行い、受験科目数を減らさない支援を継続する。

(2) 生徒の進路希望実現に向けた多方面からの支援に取り組む。

- ①ア 進路指導に必要となる情報共有を推進し、教員間の指導レベルの均質化を達成する。
イ 教科会で模試分析を実施し、ケース会議の志願状況等とともに、教科指導・個別指導へ反映させる。
- ② 都の育成事業について、積極的に参加するよう呼びかけ、生徒の進路意識向上に寄与する。

(3) 東京学芸大学との連携拠点校としての機能を実働させる。

- ①② 教職志望者に限定せず、生徒にとって自身の進路実現にもつながるプログラムを提供する。Tokyo-IBLハイスクールとして、地域の小中学校への訪問を通じて連携事業を推進する。

【数値目標】

- ① 学校評価アンケートの肯定的評価
「第一志望実現の進路指導」90%
〔生徒84.9%、保護者85.0%〕
「進路情報の提供」90%
〔生徒86.1%、保護者85.6%〕
- ② 国公立大学現役合格者60名〔60名〕
- ③ 大学入学共通テスト6教科8科目受験
40%〔38.7%〕
- ④ 休業期間中の講習実施のべ240日〔227日〕
- ⑤ 学年+1時間の自主学習時間33%〔30.1%〕
- ⑥ 全科目における大学入学共通テスト
全国平均上回り率116%〔116%〕
得点率80%以上の割合18%〔18.9%〕

3 生活指導

- (1) 規律ある学校生活の中で、自律の精神を養う。
- ① 挨拶や身だしなみ、チャイム始業等の授業規律等の指導を通して、本校生徒として相応しい態度の育成及び自己管理能力の涵養を図る。
 - ② 地域や関係諸機関と良好な関係を構築し、生徒の健全育成や、登下校のマナー等の課題解決を図り、地域に根差した学校となるよう取り組みを行う。
 - ③ 学校いじめ対策委員会を中心に、学年、分掌等の連携のもと、いじめのない学校づくりを推進する。また、学校の教育活動のあらゆる場面で、体罰や不適切な指導の根絶に努める。
 - ④ 防災教育推進委員会と連携し、年4回の避難訓練、防災訓練を計画・実施する。

- (1) すべての教育活動を通じて、全教職員が一体的に生活指導に取り組み、規範意識の醸成を図る。
- ①ア 面接指導等を通じて、基本的な生活習慣を確立させ、遅刻指導等、時間を守らせる指導に取り組む。生活指導上の課題には生徒支援としての側面からの対応も行う。
イ 集会、HR等を通じて、スマホ、SNS等の利用にあたっての注意事項を丁寧に伝達し、犯罪等に巻き込まれないよう啓発活動、外部からの講演等の指導を継続的に行い、被害、加害のどちらにもならないよう指導を行う。
 - ② 自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全指導を徹底し、自身の安全を守るとともに、生徒が加害者にならないよう指導を行う。
 - ③ア 年間3回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。また、保護者との連絡を密にし、情報共有を円滑に実施する。
イ いじめのアンケートを年3回(6月、10月、1月)実施し、早期発見に努める。
ウ いじめの疑いがあった段階で、事態究明に即応し、情報収集、事実確認、関係機関との連携に取り組む、解決にあたる。
 - ④ 市内の関係機関を中心に連携を強化し、避難訓練、防災訓練を充実させる。

【数値目標】

- ① 遅刻指導の徹底による遅刻者数減
各クラス1日平均1人以内 [2.26人]
- ② 学校評価アンケートの肯定的評価
「生徒と向き合う生活指導」90% [86.5%]、
「いじめ防止」90% [81.4%]、
「体罰・暴言のない指導」100% [87.4%]、
「安全指導・防災教育」90% [84.7%]

4 健康づくり等

- (1) 健全な心身を育む取組を行う。
- ① 生徒の心身の健康づくりを推進するために、学校保健委員会の充実やスクールカウンセラーとの連携強化に努める。また、特別支援教育を推進する。
 - ② 生命尊重の意識を育み、自殺等の未然防止に取り組む。
 - ③ TOKYO ACTIVE PLAN for students(令和4年3月)に基づき、基礎体力向上を図る指導と意識づくりを実践し、人生100年時代を元気に活躍し続けられる健康の保持増進に取り組む。
 - ④ 体力テストで自己の課題を把握させ、一人一人が自分の目標をもって取り組む指導を行う。
 - ⑤ 校内施設・設備の維持管理に努め、生徒の安全安心な活動を支援する。

- (1) 心身の健康増進と教育相談機能の充実を図る。
- ①ア スクールカウンセラーによる1年生全員面接を1学期中に実施する。また、エリアネットワークを活用し、支援が必要な生徒対応に必要な情報共有、医療機関をはじめとする外部機関との連携を推進する。
イ 教育相談連絡会を7回開催し、スクールカウンセラーや外部機関と連携しながら教育相談活動の活性化を図る。
 - ②ア 必要なときにSOSを発信できるよう声かけを行い、相談しやすい環境を作る。
イ 長期休業の前後や行事の前後等、生徒観察が必要となる時期を中心にした情報共有を丁寧に行い、コンディションレポートのアラートの確認等、SOSを受信する体制を作る。
 - ③④ 生徒の心身両面における健康増進につながるような活動を推進し、基礎体力の向上、生涯スポーツの観点から、運動習慣の確立に取り組む。
 - ⑤ 校舎施設、設備の定期的な保守点検を行い、教

<p>(2) 校内美化・保健衛生に取り組む。</p> <p>① 学習環境整備のため、全校あげて美化活動に取り組む。</p> <p>② アレルギーを有する生徒情報を共有するとともに、エピペンの使用方法に関する研修を実施する。</p> <p>③ 「保健だより」を定期的に発行し、生徒・保護者への情報発信に努める。</p>	<p>職員間での情報共有に取り組み、必要とされる修繕に即応できるようにする。</p> <p>(2) 美化・清掃活動を徹底する。</p> <p>① 更衣室やトイレ等、共有部分の美化・整備に重点的に取り組み、清潔な状態の維持を目指す。</p> <p>② 当該担任だけでなく、教科担当、部活動顧問と情報共有を行い、関係する担任は東京都主催の研修会を受講する。</p> <p>③ 健康管理に加え、メンタルヘルスの管理等教育相談に関する情報も適宜紹介していく。</p> <p>【数値目標】</p> <p>① 学校評価アンケートの肯定的評価「教育相談の環境整備」85% [81.6%]、 「衛生・清掃状況」85% [80.7%]</p> <p>② 体力テスト合計点の全国平均との比較を昨年度以上にする。 [全国比男子+0.5p、女子+1.54p]</p>
<p>5 特別活動・部活動</p> <p>(1) 学習との両立を推進し、特別活動・部活動を充実させ、生徒の帰属意識を高めるとともに、豊かな人間性を育む。</p> <p>① 合唱コンクール、体育大会、文化祭、修学旅行等の学校行事を通して、達成感や達成感を高め、各種委員会の主体的な活動を支援する。</p> <p>② 「部活動の在り方に関する方針」に則り、活動方針を策定し、適切な指導、運営を行う。</p> <p>③ 地域、関係機関との連携を密にし、地域行事、ボランティア活動、奉仕活動へ参加させる。</p> <p>(2) 「理数研究校」として、理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を拡げ、探究活動に取り組む。</p> <p>① 「科学の祭典」ポスター発表に参加し、その他各種科学コンテストへの出場を目指す。</p> <p>② 専門機関の講師による講義や実習を実施し、研究及び発表内容の充実を図る。</p> <p>(3) 「東京グローバル人材育成方針」(令和4年3月)を踏まえ、「海外学校間交流推進校」として、国際理解教育を推進する。</p> <p>① 長期休業期間を利用した訪問を実施する。</p> <p>② 異文化を体験するとともに、日本文化を発信し、相互の文化について理解を深め、日本人としての自覚と誇りを涵養する。</p> <p>(4) 人権教育推進校として、人権教育の充実に取り組む。</p> <p>(5) 女性活躍推進事業に参加し、社会改革に取り組む教育活動を行う。</p>	<p>(1) 特別活動を充実させ、生徒に取り組みさせるのではなく、主体的に取り組めるよう支援していく。</p> <p>①ア 体育大会の種目や応援合戦、合唱コンクールの選曲、桜樹祭の企画等の段階から、準備、運営、事後の反省に至るまで、生徒の成功体験につながるよう、行事の質的向上を目指す。</p> <p>イ 生徒会・委員会や各行事実行委員会の自主的・自律的な活動を支援し、学年を越えた繋がりを意識させ、よき伝統を構築させる。</p> <p>ウ 学習と各行事に向けた準備、練習等の両立に向けて、活動時間・活動日数等メリハリある活動を促進する。</p> <p>②ア 部活動指導員を活用する等、魅力ある部活動づくりを行い、部活動の加入率を高める。</p> <p>イ 学習と部活動の両立に向けて、活動時間・活動日数等メリハリある活動を促進する。</p> <p>(2) 理数研究校として、科目横断的な研究に取り組む活動を支援し、理系教育の裾野を広げる。「総合的な探究の時間」の個人探究とも連携し、成果物は「科学の祭典」だけでなく、校内掲示や全校集会でのプレゼンテーションの場も設定する。</p> <p>(3) 海外学校間交流推進校として、姉妹校訪問を実施し、次年度の受け入れに向けた計画を策定する。</p> <p>(4) 1年生を対象に、人権課題を共有し、講演会等を通じて今日的な課題を理解させ、課題解決に向けた教育活動を実施する。</p> <p>(5) 2年生を対象に、企業で働く女性を講師に迎え、男女共同参画社会実現に向けた提言を考えさせる教育活動を実施する。</p> <p>【数値目標】</p> <p>ア 学校評価アンケート 「個性豊かな人間性の育成」85% [81.8%]、 「部活動満足度」85% [82.0%]、 「学習と部活動の両立」80% [62.1%] を目指す。</p> <p>イ 部活動加入率 95% [93.7%] を目指す。</p>

6 募集・広報活動

- (1) 本校の認知度を高め、第一志望とする生徒を増やし、受検につなげる。
- ① ホームページ等による情報発信を強化し、広く都民に本校の教育活動を周知していく。
 - ② 学校説明会や学校見学会、授業公開、部活動の見学・体験入部等の機会に、学校の特色や魅力を伝えていく。
 - ③ 一定程度の本校志願者の確保に向け、組織的かつ戦略的に広報活動を推進する。
 - ④ 学校開放事業を適切に実施し、高大連携や防災訓練等により、地域に開かれた学校を目指す。

- (1) 中学校2、3年生を対象の中心にして、学校見学会・説明会の充実、適時適切な情報発信を行う。
- ① ホームページの継続的な情報発信を充実させ、生徒・保護者及び中学生等に必要な情報を積極的に発信する。
 - ② ア 生徒による協力を求め、教員からだけでなく、生徒目線の広報活動を充実させる。
イ 中学生とその保護者に寄り添う対応を心掛け、入試情報は可能な限り発信する。
 - ③ 全教職員で広報活動に取り組み、地域連携や学習塾等への情報発信を展開する。
 - ④ 前年度に構築できた連携関係を維持・発展させるため、小金井市官公署連絡会(二水会)等に積極的に参加していく。

【数値目標】

- ① ホームページ更新回数 240回 [246回]
- ② 学校評価アンケートの肯定的評価「適切な情報発信」生徒 85% [79.1%]
- ③ 来校者アンケートの肯定的評価 90% [89.2%]

7 学校経営・組織体制

- (1) 組織的な学校運営を推進する。
- ① 企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を密にし、ボトムアップ機能を充実させる。
 - ② 戦略的な予算編成や広報活動への関与等により、経営企画室の学校経営への参画を強化する。
 - ③ 年3回の服務事故防止研修等により個人情報管理や体罰等の防止対策等、服務事故の未然防止に努める。
 - ④ OJTを通して、若手教職員の育成に努めるとともに、管理職候補者等の発掘・育成に努める。
- (2) 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」(令和6年3月)に基づき、ライフ・ワーク・バランスの一層の推進に取り組む。
- ① 計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
 - ② 年休取得等促進及び超過勤務等縮減に計画的に取り組む。

- (1) 課題を可視化し、組織を活性化する。
- ①② 学校評価や授業評価、アンケート、学校運営連絡協議会の協議委員による提言等から課題を把握し、予算編成に活かす等、学校経営の一層の改善を推進する。
 - ③ 研修の実施と自己点検の徹底に取り組み、事故の未然防止に取り組む。
 - ④ キャリアアップについて、個々の教職員のライフステージを見据えながら、人材育成を図る。

- (2) ライフ・ワーク・バランス推進の取組として、教職員の在校時間の縮減を一層推進する。
- ① ア 各種会議の上限時間を設定する等に取り組み、教職員の在校時間の縮減を図る。
イ 分掌間の連携を強化するとともに、業務の見直し等、業務の効率化を図る。
ウ 統合型校務支援システム、定期考査採点・分析システムの活用を推進する。
 - ② 看護休暇・短期介護休暇等の利用を推奨する。

【数値目標】

- ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった」とする評価 100% [87.5%]
- イ 学校評価アンケートの肯定的評価(入学満足度) 85% [80%]、(学校生活の充実度) 85% [80%]、(能力を伸ばす教育の実践) 85% [80%]、(施設設備の整備) 85% [80%] を目指す。